



ほこっと

TEL 0598-38-1133

<http://www.town.taki.mie.jp/library/index.html>



4月30日は「図書館記念日」です。

本との幸せな出会いがありますように、。

私たち(司書)もお手伝いをさせていただきます。

改めて、図書館ってどんなところ

● 無料

● どなたでも

あかちゃんからお年寄りまでどなたでも利用していただけます。

● 新しいのも、古いのも

古い本(資料)はもちろん、新しいのも随時入っています。

● 調べ物

「〇〇〇についての本はないのか」といった質問をはじめ、日々の暮らしで感じる疑問や課題などを、図書館の資料や情報を使って解決のお手伝いをします。
お気軽に声をかけてください。

● いろいろあります

小説だけではありません。
歴史、経済、旅行、スポーツ、芸術、料理絵本など、いろいろな分野のものがあります。
新聞や雑誌も定期的に入ってきて、一定期間保存しています。

● イベント

おはなし会をはじめ、行事や講演会なども催しています。

4月

■ はお休みです。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 ブック スタート	12	13 10:30 おもちゃ	14 10:30 ほけっと
15	16	17	18	19	20 10:30~ 赤ちゃん	21
22	23	24	25	26	27 館内整理	28 10:30~ ほけっと
29	30	5月/1	2	3	4	5

(図書館利用案内)

- ☆ 開館時間：午前10時～午後6時まで
- ☆ 貸出期間：2週間
- ☆ 貸出冊数：ひとり10冊まで
- ☆ 図書館が閉まっているときは、返却ポスト(玄関向かって左側)へ返却できます。
- ☆ 多気図書館、勢和図書館のどちらでも返却していただけます。

『桜守のはなし』

講談社 (2012年)

佐野藤右衛門 (さの・とうえもん)



「桜は「守り」をして、継いでやらな絶えてしまう木なんです。桜に一生の夢と命を注いだ桜守が語る写真絵本。」

『桜のいのち庭のこころ』 (1998年)

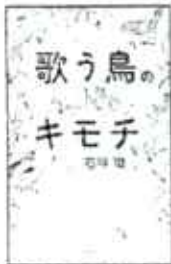
佐野藤右衛門 (さの・とうえもん) 草思社



桜や庭づくりを通して、自然・昔の人の暮らしと知恵を伝える。やわらかく花のある語り口調で書かれた、ほっこりのお話。

『歌う鳥のキモチ』 (2017年)

石塚徹 (いしづか・とおる) 山と溪谷社



ウグイスは、春にほるとなぜ「ホーホケキョ」と鳴くのか？鳥たちの面白い私生活と鳴き方を紹介、さらに聴く人のココロにも迫ります。

春です！うきうき♪♪

『春夏秋冬 土用で暮らす。五季でめぐる日本の暦』 富田隆文 (とみた・たからみ) (2016年)

植松良枝 (うえまつ・よしえ) 主婦と生活社



季節と季節の間の大切なとき「土用」。歳を重ねることに気になる節目。春の土用は4/8頃からの18日間。

さあ、新しい季節に向けて！だからこそ、暮らし方と知恵を学びたい。

『数をかぞえるクマ サーフィンするヤギ』

動物の知性と感情をめぐる驚くべき物語』

(2017年)

ベリンダ・レシオ NHK出版



表紙から、やられました！

この表情。仲間への思い？

脳ミソをもつ腕？星と利用して移動するのは？豊かな感性と愛らしさに癒され、懸命に生きる姿と優れた行動に感動です。まさに驚くべき物語！

『われらの図書館』 (1987年)

前川恒雄 (まえがわ・つねお) 筑摩書房



図書館とは、司書とは—原点に戻って読み返したくなる本。「公共図書館を住民のものにした」著者の思いが熱く語られている。(東京都日野市立図書館長、滋賀県立図書館長を務める。)

『わたしのとくべつな場所』 (2010年)

パトリシア・マキサック/文 ジェリー・ピンクニー/絵 新日本出版社



1950年代、人種差別のあつたアメリカ南部で、ある場所へと向かう女の子のおはなし。その場所こそが...。図書館の根っこを插いた力強い作品。

図書館は身近にあります。

『走れ！移動図書館 本でよりそう復興支援』

鎌倉幸子 筑摩書房 (2014年) (かまくら・まこと)

震災直後、本の力を信じて行われた「本を届ける」活動をたどる。



『つながる図書館 (2014年)』

コミュニティの核をめざす試み』 猪谷千香 (いがや・ちか) 筑摩書房

今「図書館が、変わりつつある。そのさまざまは取り組みがここに！」

